

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570300473	
法人名	社会福祉法人上越老人福祉協会	
事業所名	グループホーム敬寿	
所在地	新潟県上越市新南町28番地3	
自己評価作成日	令和2年10月5日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiizokensaku.mhlw.go.jp/15/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=1570300473-00&PrefCd=15&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県介護福祉士会	
所在地	新潟県新潟市中央区上所2-2-2	
訪問調査日	令和2年11月26日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・在籍職員9名中、介護福祉士資格を保有したした職員が8名勤務し認知症高齢者の生活を支援している。更に、法人及びグループのスケールメリットを生かしながら、多職種からの刺激を受けながら多方面の知識を得る事ができる環境にある。グループ内に地域包括支援センター、老人保健施設があり、相談できる環境が整っていることは、利用者の生活の質を高め、また、健康増進にも生かすことができる。

・認知症高齢者にとって不可欠である規則正しい生活を支援するために日々の日課を大切にしている。午前中は体操やレクリエーション、午後は個人作業の時間がある。参加は強制ではなく、あくまでも個人の意思判断に委ねている。

・新型コロナウイルス感染症前は職員と利用者が一緒に飲食を行い、食事やお茶の時間はゆっくり過ごす時間としていた。新しい生活様式(ケア様式)を模索するなか、今後も継続せざるを得ない。これまでは日々の食材の購入など一緒に出掛けることもあったが外出は行っていない。室内で楽しむ行事の機会を増やし精神活動の低下、および体力低下への対策を心掛けている。

・家事行為や炊作業など、できる活動を継続的にサポートしている。

・居室内にトイレや洗面所が設置され、他者に気兼ねすることなくゆっくり使用することができる。室内とリビングは近く、バリアフリーの設備環境である。

・朝食と夕食は宅配食材を利用している。職員にはゆとりが生まれ、これまで食事作りにかかった時間を、現在は入居者への直接支援に振り替えている。昼食は季節の食材を生かした職員の手作りにこだわっている。タンパク質が不足しないように、日々の水分も不足しないように心がけている。

・2か月に一回、担当職員が写真と近況を伝える手紙を作成している。ご家族には緊急時の病院受診や日用品の買い物などを協力していただいている。ご家族の状況によっては施設で対応することもいとわず、家族と連携しながら、利用者の生活を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○法人のスケールメリットを活かしたケアと協働姿勢
上越地域内で多数の高齢者介護福祉事業を展開する法人が、介護老人保健施設と併設する形で平成9年9月に開設し24年目を迎えた1ユニットのグループホームである。近隣には公園や保育園、病院、スーパーなどがあり、利便性の高い環境に立地している。緊急時の対応や職員研修、委員会活動等、母体施設との連携支援体制が整っており、看護師、理学療法士、管理栄養士などの専門職がホームを訪れることも多い。具体的な助言を受けながら情報交換に努め、多職種で利用者の安全で快適な生活を支えている。

○深まる地域交流と事業所が目指すグループホームに向けて
事業所は地域密着型サービスとしての役割から、住み慣れた地域との繋がりに重きを置き、菊祭りや塞ノ神、町内の運動会やサロンへの参加など、季節ごとの地域交流に積極的に取り組んでいる。コロナ禍でそれが制限される中、事業所として何か地域貢献できないかと職員と共に話し合いを重ね、先月から広報誌をリニューアルし、介護する側の目線を大切にしながら認知症の予防や啓発についてわかりやすいことばで情報発信に取り組んでいる。施設長は職員とのコミュニケーションを大切にしており、事業所内は職員同士が気軽に意見を述べ合える風通しの良い穏やかなチームワークが窺える。互いに意見を出し合いながら、更なる質の高いサービスの向上を目指し、地域に根差した事業所として益々の発展が期待される。